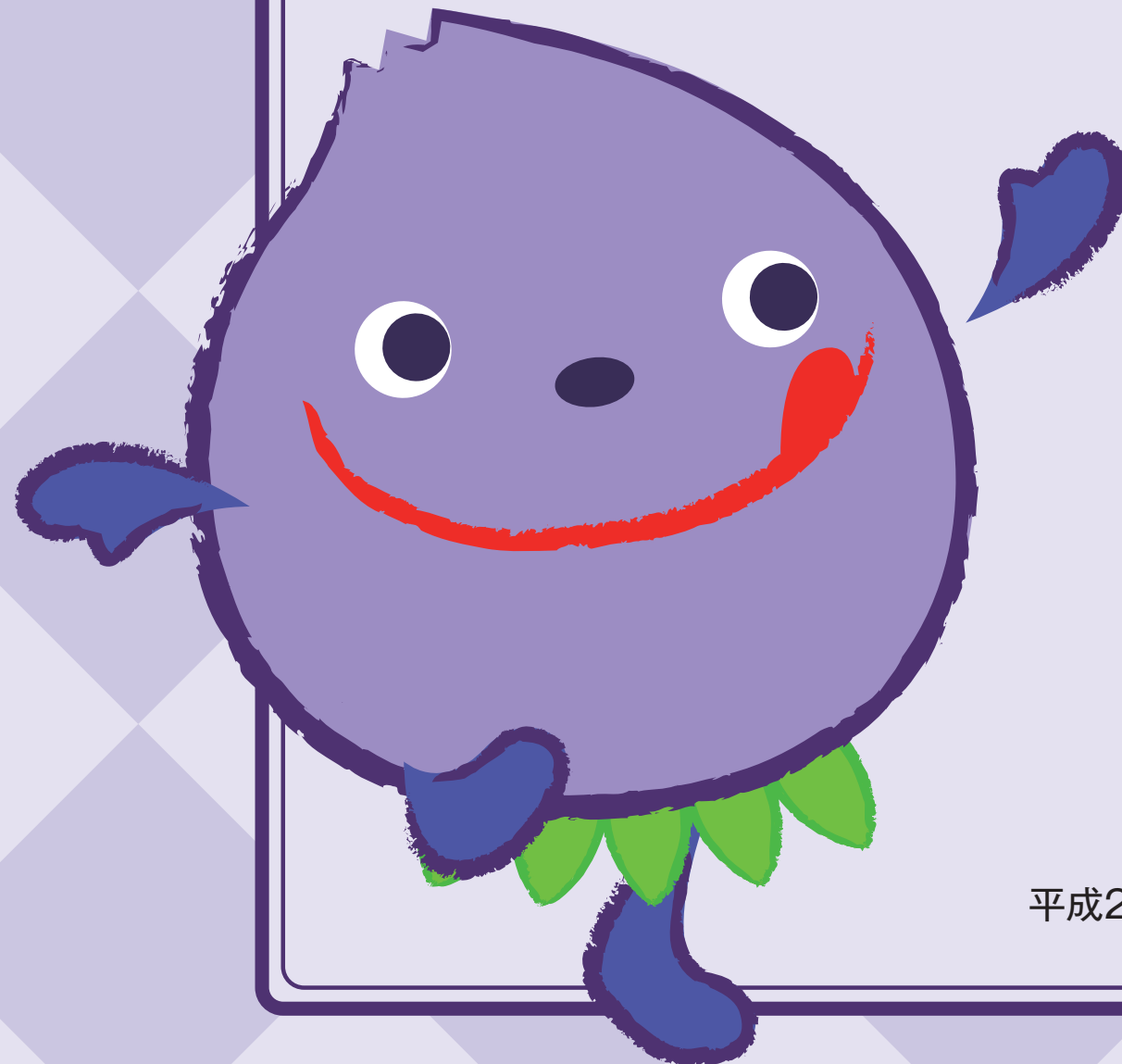


小平市

# 観光まちづくり 振興プラン

～都会から 一番近い プチ田舎～



小平市

平成26(2014)年3月

## はじめに

小平市では、これまでも、地域活性化の実現に、様々な施策により取り組んでまいりましたが、このたび、観光まちづくりという視点で地域の活性化に取り組むことが必要であると考え「小平市観光まちづくり振興プラン」を策定いたしました。

東京都心のベッドタウンとして栄えてきた小平市でも、近い将来に人口減少が予想されており、経済や地域への影響が懸念されています。これからも小平市が快適な環境を守り続けていくためには、地域の活性化が不可欠です。

市民の皆様にご地域のよさに気づいていただき、多くの方に広めていただくことで地域内外の交流が活発になり、小平が好きという方が増えていくことに期待をしています。本プランに掲げたそれぞれのアクションプランには、市の取り組みだけでなく、市民や事業者、各種団体の皆様に取り組んでいただきたい内容が含まれています。市に関わる多くの人々の取り組みによって、観光まちづくりが進んでまいりますので、今後ともぜひ、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、本プランの策定に当たり、ご尽力いただきました小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会の委員の皆様をはじめ、アンケートにご協力いただきました市民の皆様、並びに貴重なご意見をお寄せいただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。



平成26（2014）年3月

小平市長 小林 正 則

## 目次

序 章 策定の目的と位置づけ.....	2
1 策定の目的.....	2
2 小平市観光まちづくり振興プランの位置づけ.....	4
3 小平市観光まちづくり振興プランの対象期間.....	4
第1章 小平市の概要と観光に関わる現状.....	5
1 小平市の概要.....	5
2 小平市の地域資源.....	9
3 アンケート調査結果の概要.....	13
4 観光に関わる現状の整理.....	20
5 小平市における観光まちづくりの課題.....	22
第2章 基本理念と方針.....	24
1 基本理念.....	24
2 基本方針.....	25
3 振興プランの推進にあたって.....	26
第3章 小平市の観光アクションプラン50.....	28
1 観光まちづくりの戦略及び目標設定.....	28
2 アクションプラン50と重点施策.....	29
目標1 観光まちづくりの推進体制を確立する.....	29
目標2 おもてなしの環境整備を進める.....	30
目標3 地域の情報発信力を強化する.....	32
目標4 ゆったりしたまちの価値への理解を深める.....	34
目標5 文化・交流につながる地域資源を活用する.....	36
目標6 特色ある自分たちのイベントという意識を高める.....	39
目標7 小平ならではの特産品づくりと産業振興を進める.....	40
第4章 振興プランの実現に向けて.....	42
1 推進主体及びスケジュール.....	42
2 プランの進捗状況の把握.....	42
資料編.....	48
1 小平市観光まちづくり振興プラン策定経過.....	48
2 小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会設置要綱.....	50
3 小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会名簿.....	52

## 序章 策定の目的と位置づけ

### 1 策定の目的

小平市は近年、東京都心のベッドタウンとして栄えてきました。これまでは順調に人口が増加してきましたが、平成 24(2012)年 6 月の小平市人口推計報告書によると、平成 27(2015)年をピークに人口減少が始まると予測されています。

人口減少が始まる前に、地域活性化に着手する必要があり、そのひとつの手段として「観光まちづくり」に取り組みます。

小平市が観光まちづくりに求めるものは、まず市民自らが小平市のよさに気付くこと、そのよさを広く知ってもらうこと、地域内外の人の交流が活発となり、地域の産業（農業・商工業）に刺激となること、市民が地域に誇り・愛着を持ち「住み続けたい」と思うこと、新たに「小平市に住んでみたい」と考える人が増えること、などです。これらが達成されることで、地域の活性化につながります。

これまでも小平市では、まちの魅力づくりのために、小平グリーンロードやブルーベリー、その他さまざまなものを活用してシティセールス（知名度・イメージの向上）の取組みなどを行ってきました。小平市観光まちづくり振興プランは、これまでの実績をふまえて、目指すべき観光のまちのイメージを明確にし、その実現に向けた方策を示すものです。

### ○観光まちづくりに期待される効果

観光まちづくりを進めることにより、次のような社会的効果、経済的効果が期待できます。

#### ・人が育ち、ネットワークが広がる効果

観光まちづくりを進めるには、多くの市民・関係団体等が協力し、おもてなしの心を広げ、地域社会全体で取り組むことが不可欠です。その過程で、地域のリーダーなどの人材が育ち、また、人のネットワークが広がります。

#### ・地域経済に波及する効果

訪れる人が地域で飲食や買い物などをするることによる経済効果のほかに、人の交流が増えることでビジネスの機会が広がります。

#### ・シティセールスの効果

地域のいいところ（地域資源）を活用し、広くアピールすることによって、まちの知名度アップ、イメージアップにつながります。

・ **市民の定住指向が強まる効果、及びまちの愛好者が増える効果**

市民がまちの魅力に気付くことで、地元への誇りや愛着が深まり、「住み続けたい」と思うようになります。

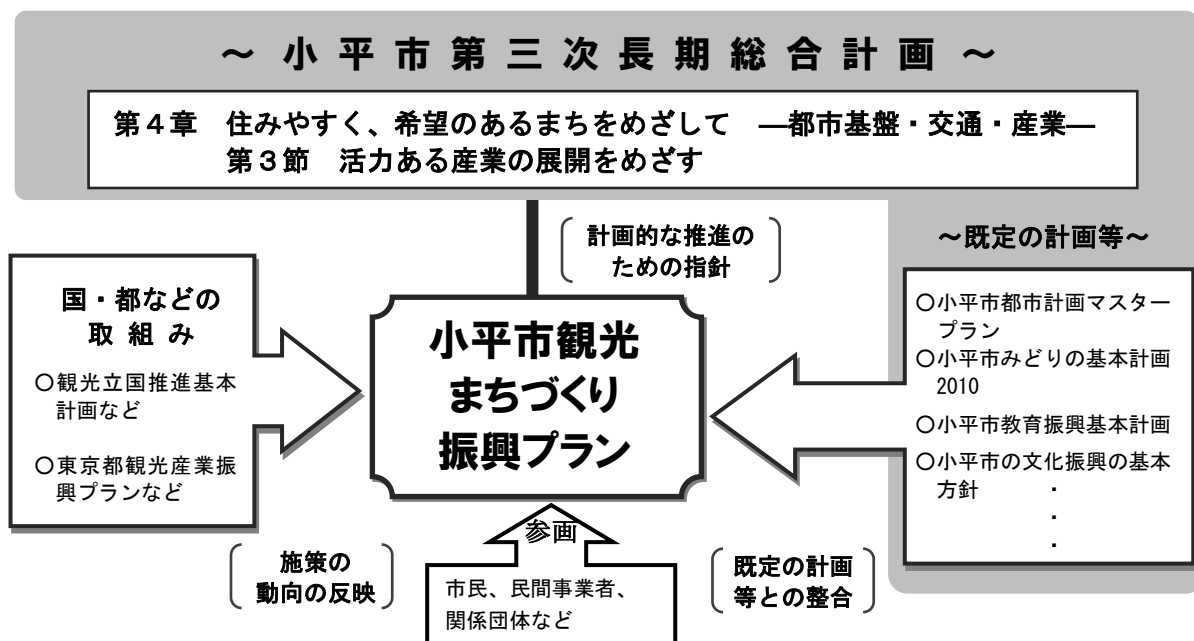
また、市外にもまちの愛好者が増え、「訪れてみたい」「住まいを選ぶときは、あのまちにしたい」と、意識するようになります。

## 2 小平市観光まちづくり振興プランの位置づけ

本プランは、観光まちづくりの基本理念や将来の方向性を示すものであり、計画的に取り組むを進めるための指針と位置づけます。また、産業（農業・商工業）の分野にとどまらず、広報、地域社会、緑、水、文化振興、生涯学習など市の施策のさまざまな分野にも関わるため、本プランは「小平市第三次長期総合計画」をはじめ「小平市都市計画マスタープラン」「小平市みどりの基本計画 2010」「小平市教育振興基本計画」「小平市の文化振興の基本方針」など既定の計画等との整合を図ります。併せて、国や東京都の施策の動向をふまえた内容とします。

また、観光まちづくりには、小平市のよさや、まちの魅力を地域全体で見直すこと、及びおもてなしの心を広げることが大切であり、関係団体や民間事業者、市民など多様な主体が参加し、協力しあうことが不可欠です。このため、本プランは多様な主体が観光まちづくりに参画することを促すものとします。

### 小平市観光まちづくり振興プランの位置づけ



## 3 小平市観光まちづくり振興プランの対象期間

本プランの対象期間は、平成 26(2014)年度から平成 35(2023)年度までの 10 年間とします。

なお、期間内においても、社会情勢の変化や観光まちづくりの進捗状況等に応じ、適時、見直しを図るものとします。

# 第1章 小平市の概要と観光に関わる現状

## 1 小平市の概要

### ○小平市の地勢

東京都心の西方26kmに位置し、市域は東西約10km、南北約4kmで、面積20.46km<sup>2</sup>、人口約18万人の都市です。市内には、JR武蔵野線、西武拝島線、西武国分寺線、西武多摩湖線、西武新宿線が通り、新宿との間を30分で結んでいます。小平市を通る主要な道路として、東西方向の中央部に青梅街道が、その北側を新青梅街道、南側を五日市街道が横断しており、南北方向には府中街道、新小金井街道、小金井街道が縦断しています。広域行政圏としては、多摩北部都市広域行政圏に属しています。

関東山地を流れ下ってきた多摩川が形成した扇状地の上に、数メートルから十数メートルの厚みをもって関東ローム層が堆積している武蔵野台地であり、平坦な地形であることが特徴です。



### ○まちの形成過程

江戸時代初期の玉川上水の開削以降、小平の地で新田開発が進みました。青梅街道などの街道に沿って短冊状に地割が行われ、江戸の近郊農村として歩んできました。

関東大震災後の「学園都市構想」以降に都心部の学校（現在の一橋大学、津田塾大学）が移転し、あわせて学園地区の宅地開発が始まりました。昭和10年代に陸軍経理

学校など軍関係の大規模施設が造られ、のちに国の施設や工場等に転用されています。

終戦後は戦災を受けた都心部の住宅難から都営住宅の建設が進み、昭和 30 年代には大小の工場が誘致されました。高度経済成長期には、いわゆるベッドタウンとして、住宅地化が大きく進みました。

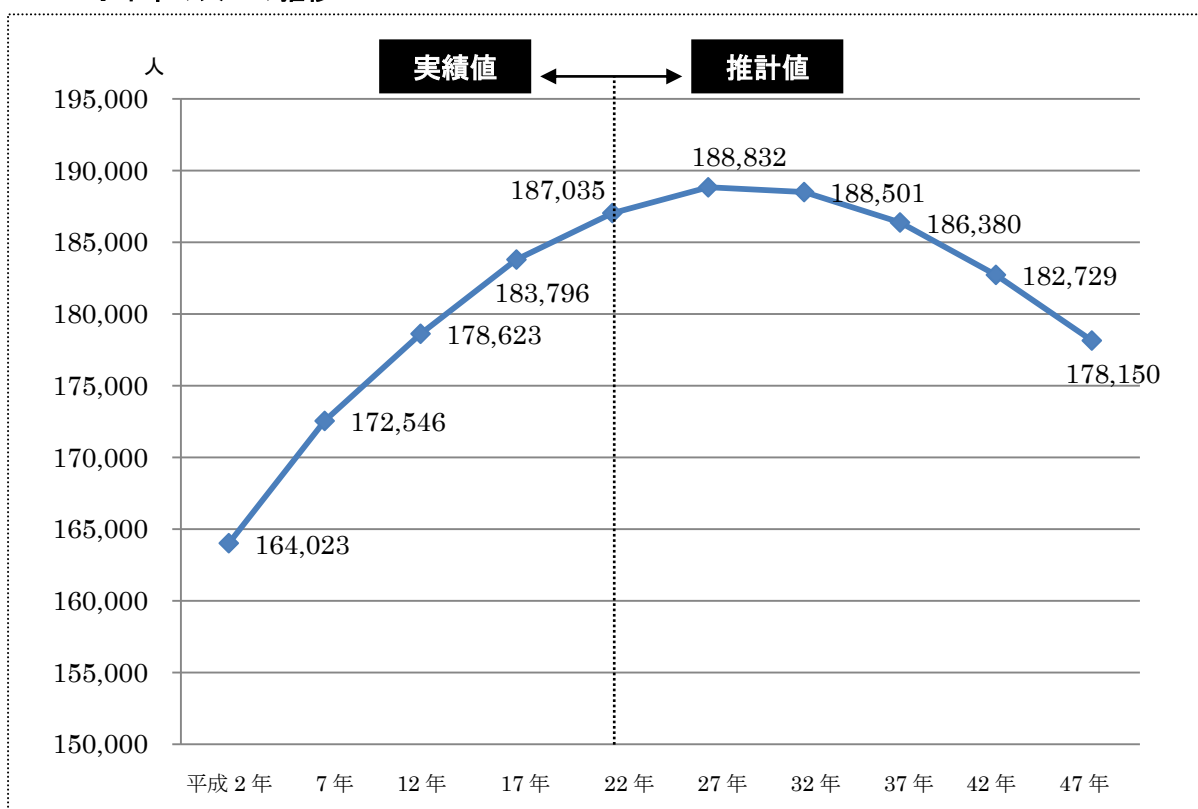
こうした歴史的なまちの形成過程が、現在の小平のまちを特徴付けており、「緑と都市機能が調和した豊かな住宅都市」として発展してきています。

## ○小平市の人口

人口は昭和 30～40 年代に大幅に増加し、近年では微増傾向にあります。

今後の見通しとしては、平成 22(2010)年の国勢調査人口 187,035 人に対して、平成 27(2015)年の 188,832 人をピークに、その後減少傾向になり、平成 32(2020)年に 188,501 人と推計されています。(小平市人口推計報告書 H24.6)

### 小平市の人口の推移

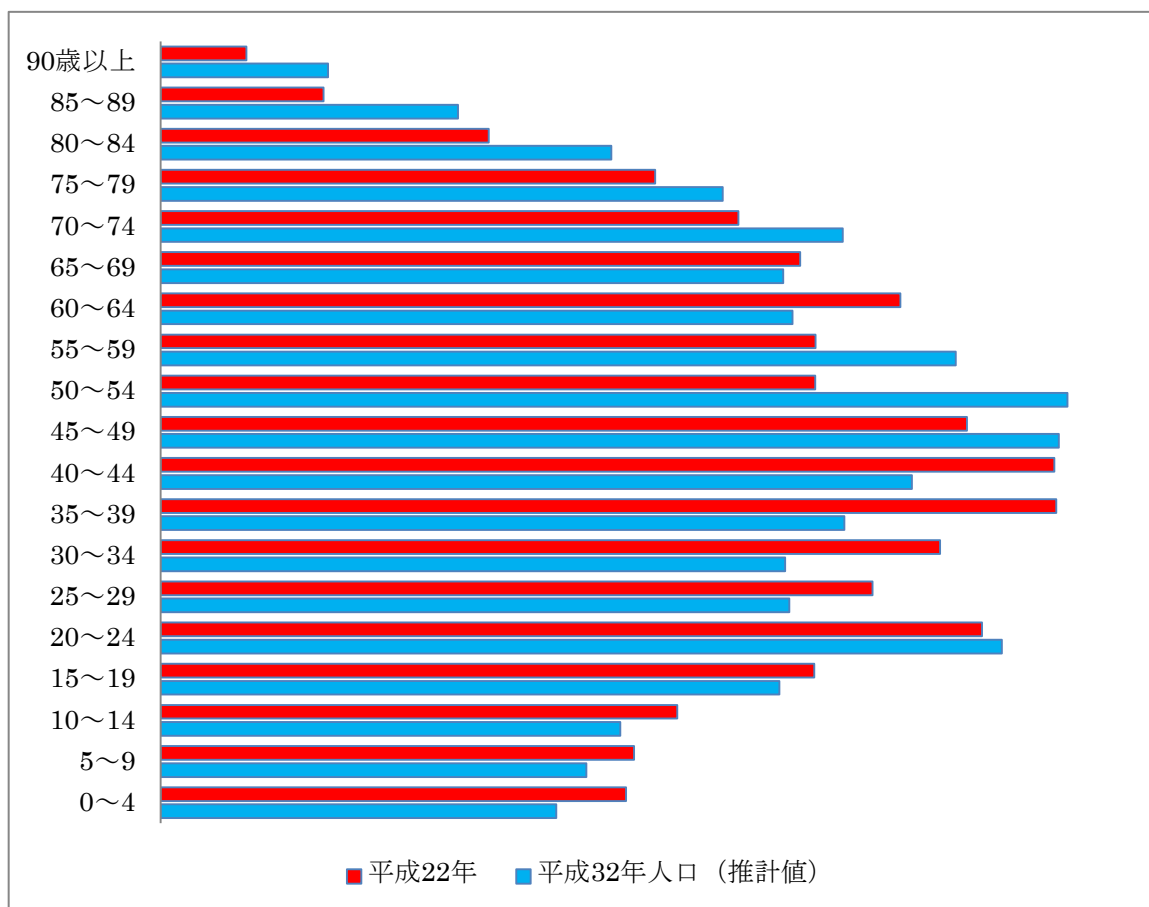


(小平市人口推計報告書より)



小平市の人口構成を見ると、学校が多いことで、20～24歳の年齢層が多くなっていることが特徴です。（同報告書より、平成22年と平成32年の人口構成を対比）

### 小平市の人口ピラミッド



## ○小平市の産業

### 【農業】

小平市は全域が市街化区域に指定されており、市内における農地面積は減少傾向で、宅地等への転用が進んでいます。市の面積 2,046ha に対して、約 204ha が畑（固定資産税の対象地目）で、約 181ha が生産緑地に指定されています。また農家の戸数は 365 戸です（H25.1 現在）。

かつて広く栽培されていた小麦の生産は現在ではほとんど見られなくなり、少量多品目の野菜や果物作りが変わっています。農作物の中では、なし、うど等が名産とされており、近年では小平市が日本における栽培発祥の地として有名な、ブルーベリーの栽培も盛んになっています。

身近に農地があることで、直売所を中心に新鮮な農産物が手に入りやすい環境にあります。

## 【商工業】

小平市の商店街は駅前等を中心に発達し、日常消費する最寄り品の販売や飲食を主としてきました。近年では小売業の仕組みの変化、スーパーやコンビニエンスストア、幹線道路沿いの店舗（ロードサイド店）の進出などの影響もあって、商店街に空き店舗が目立つ例も多くなっています。

市内に、デパートや大型ショッピングモールはありませんが、世論調査（平成24年）によると、買い物の便については、「満足・やや満足」という回答が58.3%と半数以上であり、「不満・やや不満」という回答は21%です。商業統計調査（平成19年度）によれば、市内の小売業の年間商品販売総額は1,324億円で、多摩26市中8位です。

工業では、近隣市と同様に工場の市外移転の例も見られるものの、ブリヂストン、ルネサスエレクトロニクス、日立国際電気など、最先端技術を持った工場・研究施設があります。



### コラム1：小平市とブルーベリー

ジャムやデザートなどでおなじみのブルーベリー。今では日本各地で栽培されていますが、国内で初めて栽培されたのが小平市だということをご存知でしょうか。

昭和43年、日本におけるブルーベリーの父と呼ばれる東京農工大学の岩垣教授（故人）の教え子の実家の畑にブルーベリーの木が植えられました。

当時はまだ一般にはなじみのない果物で、販売する苦労は並大抵のものではなかったといえます。試行錯誤しながら栽培技術を高めていく中、昭和50年に大手メーカーがジャムの販売を開始し、ブルーベリーの名は知られるようになりました。

初めてブルーベリーの木が植えられたのは、小平市花小金井南町の農園です。西武新宿線花小金井駅南口には「ブルーベリー栽培発祥の地こだいら」の標柱が建てられており、周囲にブルーベリーの木が植えられています。

## 2 小平市の地域資源

観光まちづくりを考えるにあたり、地域にどのようないいところ（地域資源）があるかを把握することが必要となります。既にある地域資源を見つけ、整理して、その魅力を磨くことが大切です。また、地域資源は、既にあるものだけでなく、新たに創り出すこともできるものです。（新たな施設、新商品、新規イベントなど）

### ○散策コース

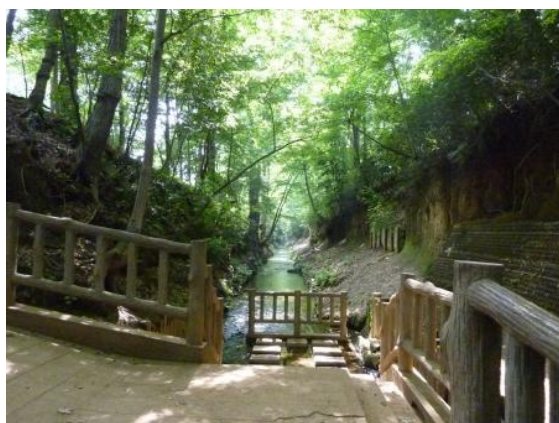
小平グリーンロード（美しい日本の歩きたくなるみち500選）



狭山・境緑道

### ○緑

史跡玉川上水	名勝小金井サクラ	狭山・境緑道	野火止用水
薬用植物園	あじさい公園	中央公園	小平霊園
小金井公園	摘み取り農園	オープンガーデン	小金井カントリー倶楽部



玉川上水（じょうすいこぼし）



オープンガーデン

## ○歴史的景観

屋敷林

短冊型の農地

用水路

神社・寺院

竹内家の大ケヤキ



小川用水

## ○イベント

こだいら市民駅伝 (2月) 花まつり (3月) グリーンフェスティバル(5月)

ホタルの夕べ (6月) 灯りまつり (8月) 市民まつり (10月)

産業まつり (11月) 収穫祭 (11月) 大学等の学園祭

商店街や地域のイベント 神社の祭礼 (万灯行列など)



市民まつり



こだいら市民駅伝



## ○文化施設等

---

小平市民文化会館（ルネこだいら）	小平ふるさと村	
平櫛田中彫刻美術館	ふれあい下水道館	鈴木遺跡資料館
多摩六都科学館	ブリヂストンTODAY	ガスミュージアム
大学等の学校施設	情報通信研究機構展示室	



ルネこだいら



ふれあい下水道館

## ○その他の施設

---

こもれびの足湯	日本一丸ポスト	F C 東京小平グランド
---------	---------	--------------



こもれびの足湯



日本一丸ポスト

## ○ゆかりの人物

---

平櫛田中、齋藤素巖など歴史上の人物  
小平ゆかりの各界の著名人  
さまざまな分野で活動する市民

## ○食べ物

小平産ブルーベリー  
農産物（野菜、なし、うどんなど）  
小平<sup>かて</sup>うどん  
市内にあるさまざまな飲食店



ブルーベリー

## ○新たに創る地域資源

新たに建設する施設  
新商品  
新規イベント など



仲町公民館・図書館  
(平成 26 年度竣工予定)



### コラム2：緑の回廊、小平グリーンロード

小平グリーンロードとは小平市内の玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、小金井公園を結ぶ緑の回廊で、一周すると約 21 km の起伏の少ない散歩道です。この水と緑の散歩道「小平グリーンロード」に市内外の多くの人々が親しんでいます。小平グリーンロード沿いには駅が点在し、どの駅から始めても、どの駅で終わってもすばらしい自然を楽しめ、ゆっくり散策できるのも特長です。

平成 16 年には「美しい日本の歩きたくなるみち 500 選」にも選ばれています。これは社団法人日本ウォーキング協会が、国土交通省などの後援を受け、選定したウォーキングコースで、多摩地域で選定された 8 コースのうちのひとつです。

### 3 アンケート調査結果の概要

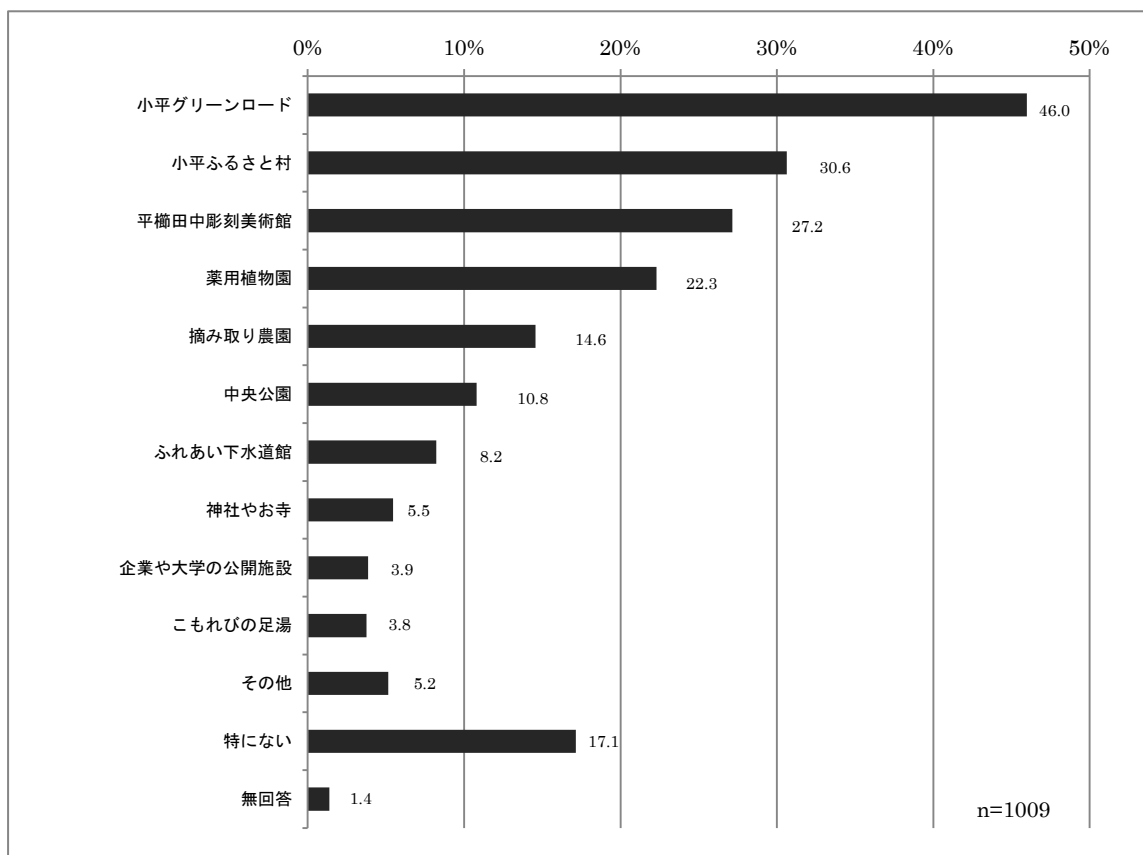
市民を対象にした世論調査の結果、及び1都3県（東京・埼玉・千葉・神奈川）の市外居住者（Webモニター）を対象にしたアンケート調査の結果（注）を手がかりとして地域資源をはじめとした小平市の観光に関わる現状を考察します。

（注）世論調査は、行政全般に関して、市内在住の2,000人を対象に、郵送により実施しているアンケート調査です。

市外居住者に対する調査は、調査会社に登録されたモニターを対象に「観光についての調査」として回答者（300人）を募集し、Web画面上で入力してもらう方式で実施しました。西武線沿線や武蔵野線沿線の居住者が多く配分されるよう、対象者のスクリーニングを行っています。

#### ○市民から見た地域資源等

図1 小平市を訪れる人におすすめしたい小平市の見どころ(複数回答)



#### 【おすすめしたい小平市の見どころ】

「小平市政に関する世論調査」（平成24年）の中で、「市外から小平市を訪れる人におすすめしたい小平市の見どころ」について尋ねたところ、「小平グリーンロード」

という回答が最も多く、次いで小平ふるさと村、平櫛田中彫刻美術館、薬用植物園となっています（図1）。

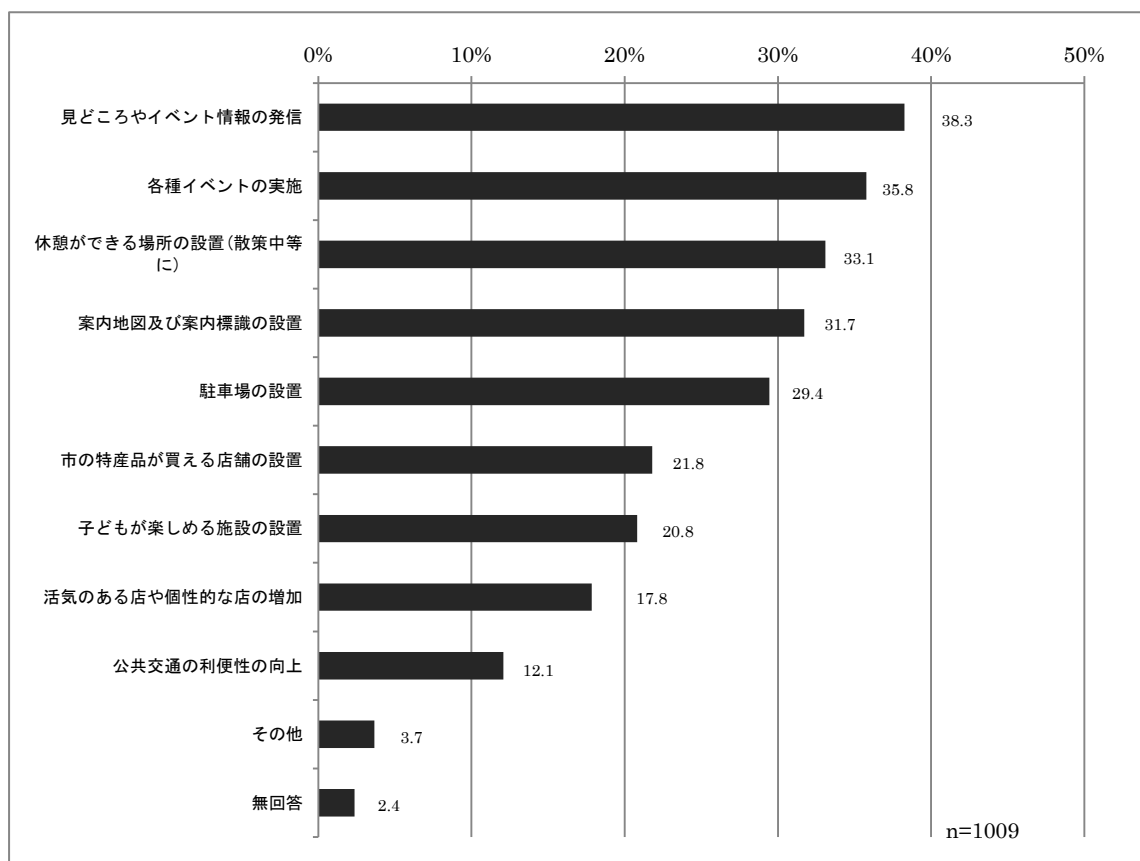
また、前回（平成22年）の「世論調査」では、小平グリーンロードについての設問があり、「小平グリーンロードを歩いたことがある」という回答が79.3%で、その主な目的としては「散歩・ジョギング」（75.2%）でした。

これらの結果から、多くの小平市民が小平グリーンロードに親しむとともに、人にもすすめたいと考えていることがうかがえます。

### 【小平市をPRするために必要な取組み】

「小平市をPRするために必要な取組み」を尋ねたところ、「見どころやイベント情報の発信」という回答が最も多く、次いで「各種イベント」「休憩ができる場所」などとなっています（図2）。まず、情報発信を求めている小平市民が多いことがうかがえます。

図2 小平市をPRするために必要な取組み(複数回答)



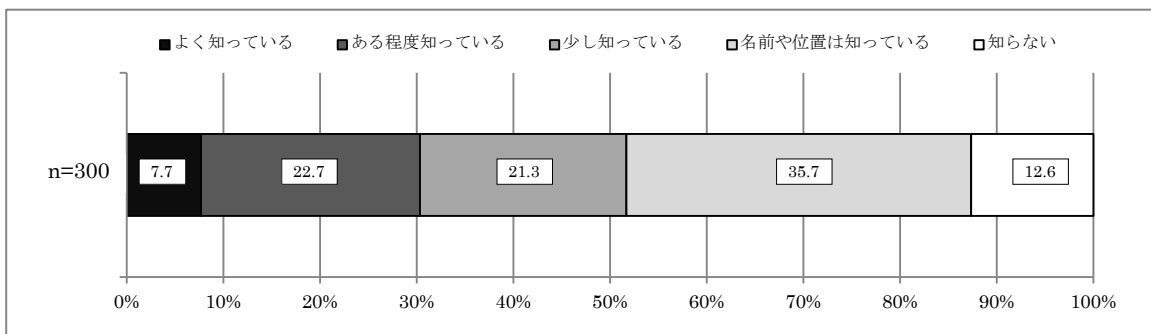


## ○市外居住者から見たイメージ、地域資源等

### 【小平市の認知度】

1都3県の市外居住者に対して、小平市を知っているかどうか（認知度）を尋ねたところ、「名前や位置は知っている」が35.7%で最も多く、「ある程度知っている」が22.7%、「少し知っている」が21.3%という結果でした（図3）。

図3 小平市について(認知度)

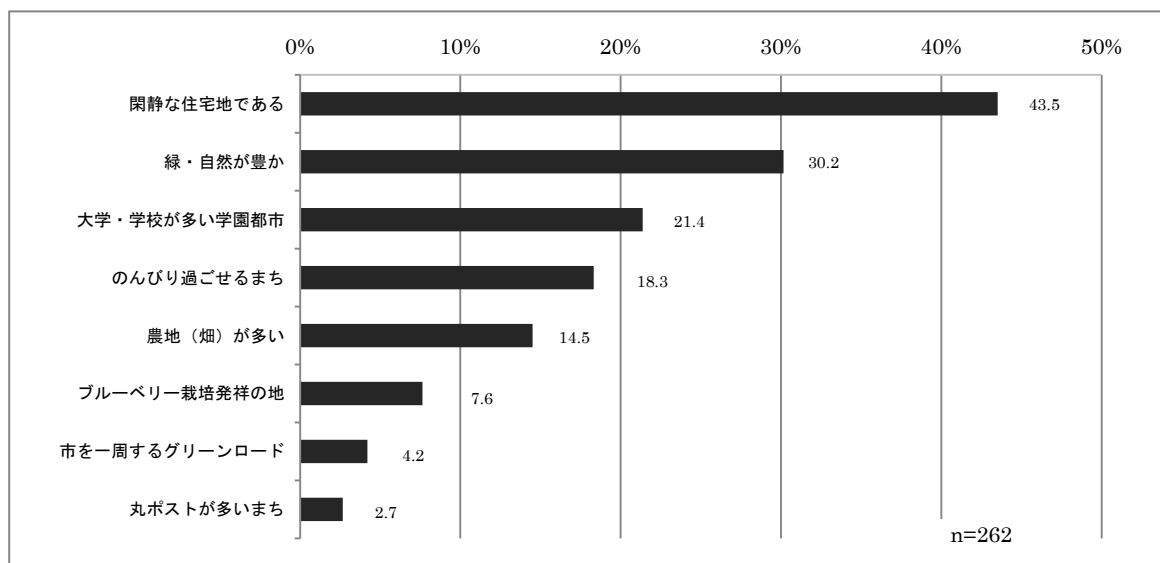


### 【小平市のイメージ】

市外居住者に対して「小平市のイメージ」を尋ねた結果では、「閑静な住宅地」が43.5%、「緑・自然が豊か」が30.2%、「学園都市」が21.4%となりました。

小平市では「ブルーベリー栽培発祥の地」（7.6%）であることや、「小平グリーンロード」（4.2%）、「丸ポストが多いまち」（2.7%）をPRしていますが、市外居住者には、これらのイメージはまだそれほど浸透していないことがうかがえます（図4）。

図4 小平市のイメージ(複数回答、回答一部抜粋)

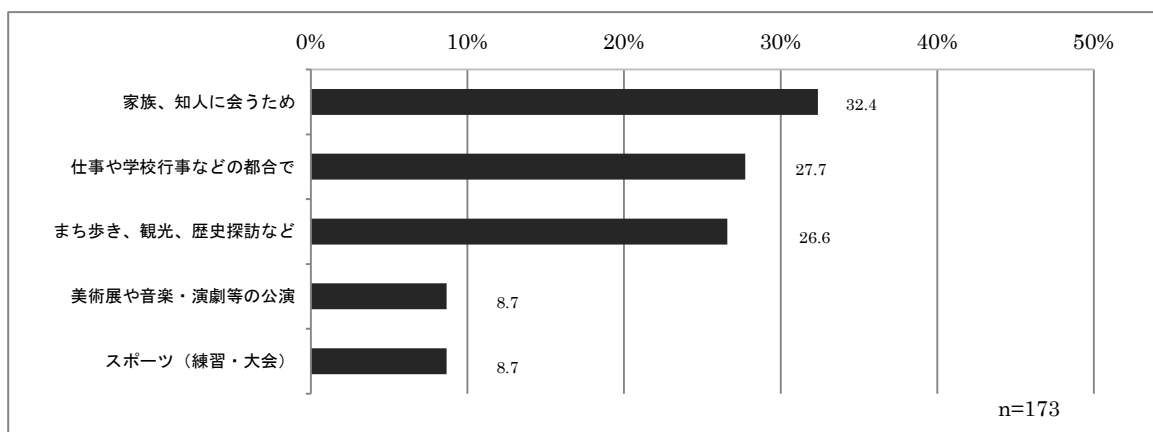


### 【小平市の訪問目的】

小平市を訪問したことのある人に、訪問の目的を尋ねたところ、「家族・知人に会う」「仕事や学校行事など」（観光以外の目的）という回答が多かったものの、「まち歩き、観光、歴史探訪など」という回答が26.6%ありました（図5）。

「まち歩きを楽しむ」ことに対して、一定のニーズがあることがうかがえます。

図5 小平市を訪れた目的(複数回答、上位回答)



### 【来訪者を増やすために必要な取組み】

小平市への来訪者を増やすために特に必要と思う取組みを尋ねたところ、「見どころやイベント情報の発信」が56.5%で1番多く、次いで「観光マップ（案内地図）の充実や案内標識の設置」（46.2%）でした（図6）。

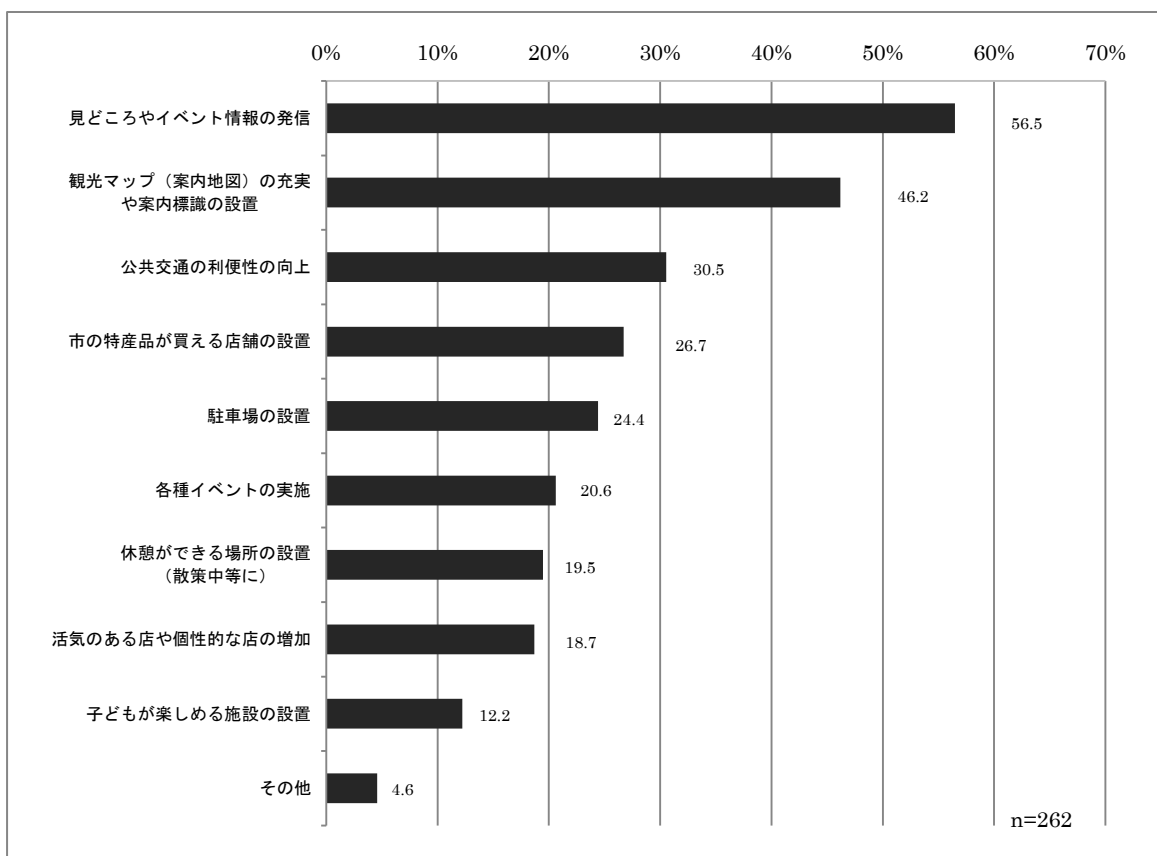
これらから、訪れるきっかけがほしいという思いを抱いていることが読み取れます。

市民を対象に同様の質問をした結果（図2）と比較してみると、市民と市外居住者に共通して最も多いのが「見どころやイベント情報の発信」という回答です。

また、「市の特産品が買える店舗」についての回答では、市民が21.8%、市外居住者が26.7%と、一定数のニーズがあることを示しています。

そのほかの項目では、「各種イベントの実施」という回答が、市外居住者（20.6%）よりも市民（35.8%）に多いことや、「公共交通の利便性の向上」という回答が市民（12.1%）よりも市外居住者（30.5%）に多いことなどが目立ちます。

図6 来訪者を増やすために必要な取組み(複数回答)



### 【地域資源の認知度・魅力度】

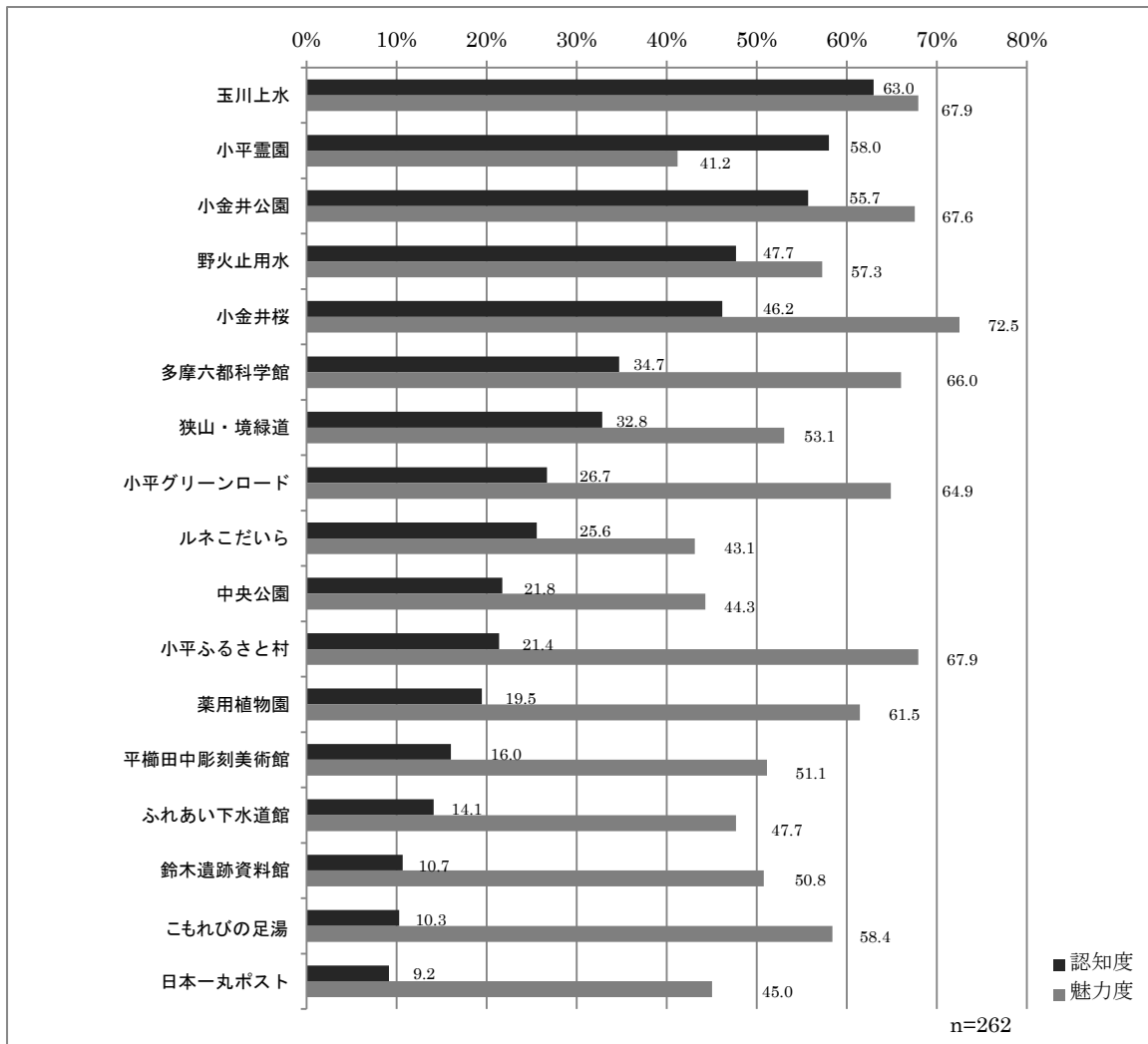
小平市にあるさまざまな地域資源(一部、隣接市に所在)の認知度と魅力度を尋ねました。認知度は「行ったことがある」「(行ったことはないが)知っている」という回答の比率、魅力度は「魅力的または関心がある」「やや魅力的またはやや関心がある」という回答の比率です(図7)。

全体的な傾向として、玉川上水、小平霊園、小金井公園など東京都が管理する緑道・公園等の認知度が高くなっており、市の施設(小平ふるさと村など)の認知度はそれほど高くはありません。

もっとも特徴的と言える結果が「認知はしていないが、魅力を感じる」という地域資源が多数みられるということです。これはつまり、伸びしろがあるということです。これまで知らなかったが、名前を聞いたら興味が湧いたということであり、地域資源に関する情報が十分に伝わっていなかったことを表しています。

世論調査(図1)と、この市外居住者調査とでは、設問や地域資源の項目数などが異なりますが、小平市民がすすめたいと考える地域資源(小平グリーンロード、小平ふるさと村、薬用植物園など)は、市外居住者にとってもおおむね魅力度が高くなっていく傾向がうかがえます。

図7 地域資源の認知度・魅力度(複数回答、回答一部抜粋)



### コラム3：日本一の丸ポスト

西武新宿線小平駅南口の小平市民文化会館（ルネこだいら）の前に、日本一大きな丸ポストがあることをご存知でしょうか。なんと高さが2.8メートルもあるのです。平成21年に日本一丸ポスト製作実行委員会より市に寄贈されました。

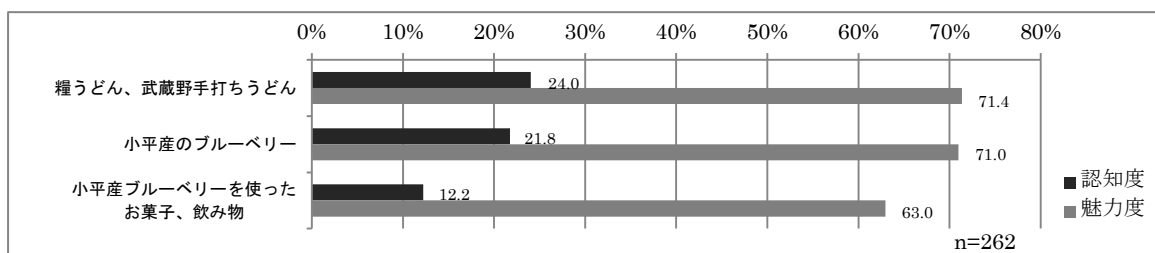
小平市内にはいまや昔懐かしい丸型ポストがたくさんあります。実は都内の自治体の中で1位の36本（現役は31本）も保有しています。都内自治体と比較してみても圧倒的に丸型ポストが多いのです。時代とともに丸型ポストが減少する中、「かわいい」「ノスタルジック」「丸型ポストを残してほしい」という声も数多く聞かれます。

### 【地域資源（食べ物）の認知度・魅力度】

食べ物については、小平糴うどん・武蔵野手打ちうどんと、小平産ブルーベリーの認知度（食べたことがある、知っている）、魅力度を尋ねました。その結果、市外居住者の認知度はまだそれほど高くないものの、魅力的と感じる人が70%を超える高い数値となりました（図8）。

これは、食の地域資源に対する関心の高さの表れであり、これら食の地域資源については、今後の企画やPRにより認知度の向上を図ることがポイントと考えられます。

図8 地域資源(食べ物)の認知度・魅力度(複数回答)

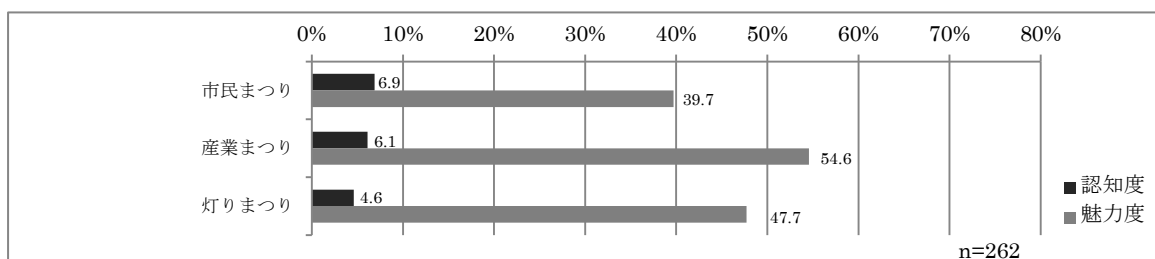


### 【地域資源（イベント）の認知度・魅力度】

イベントについては、比較的集客数の多い市民まつり、産業まつり、灯りまつりの認知度（参加したことがある、知っている）と魅力度を尋ねました。

施設や食べ物と比較すると、認知度・魅力度ともにあまり高くないことがわかります。集客数が多いわりに認知度が非常に低いことから、市外に向けてのPRが十分でないことがわかります。また、「まつり」は地域のものと考えている人が多いということも読み取れます（図9）。

図9 地域資源(イベント)の認知度・魅力度(複数回答)



## 4 観光に関わる現状の整理

アンケート調査結果に加え、小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会における検討等をふまえて、小平市の観光に関わる現状をプラス面とマイナス面に分けて整理しました。

### ■ まちの魅力・強み（プラス面）

#### ○平らな地形

小平市はその名のとおり、市内のほぼ全域が平らです。起伏が少なく、高齢者や障がいがある方、小さなお子さんを連れた方など、誰にとっても生活しやすい環境があります。また、平らな地形は、自然災害にも強いとされています。

#### ○都心までのアクセスの良さ

小平駅や花小金井駅から西武新宿駅まで、約30分で行けます。小平市在住で都心に通勤される方にも、休日等に都心から観光に訪れる方にも便利です。

#### ○ほどよい自然・緑が多く残っている

生活していく上でもほどよく、ゆったり感を期待して遊びに来た場合でも、ほどよい自然や緑が多く残っています。定住志向の方に対しても、自然派志向で遊びに来る方に対しても十分なアピールポイントです。

#### ○多種多様な地場産食材があり、直売農家などの供給ポイントが多くある

日本における経済栽培発祥の地であるブルーベリーや、小平糧うどん、地場産野菜など、多種多様な食の地域資源があります。また、それを魅力的だと感じ、購入できる場所を増やしてほしいという要望がある人が多くいることから、地場産食材への関心の高さがうかがえます。

#### ○大学・鉄道駅・文化施設が多い

多摩地区では八王子市、町田市に次いで3番目に大学が多い市です。絶えず若者が市内に存在するということは大きな財産と言えます。また、近接を含めると、利用可能な鉄道駅が10駅もあり、市内ほぼ全域が徒歩圏内であることも特長です。さらに、平櫛田中彫刻美術館や小平ふるさと村をはじめ、公設・民設の文化施設が数多くあります。

### ○閑静な住宅街であるというイメージがある

落ち着いていて、住みやすいまちのイメージとしてはよいものです。訪れても楽しいという情報を発信できれば、さらにイメージアップにつながります。



## ■ まちの弱み（マイナス面）

### ○観光に関わるおもてなしの意識が低い

もともと観光地として栄えてきた土地ではないため、観光の視点を持ったまちづくりが十分ではありません。来訪者を受け入れるための、おもてなしの意識を持った人材が不足しています。また、観光協会のような組織がなく、観光案内所の機能を持った施設もないため、受入体制が十分とは言えません。

### ○市民に対しても市外居住者に対しても情報が不足している

アンケート結果等からもわかるように、地域の魅力や小平市の情報について、十分に認知されているとは言えません。一方で、魅力度が高いというアンケート結果があるため、認知度を高めていく必要があります。

### ○施設や名所が点在しているが、つながりを感じられない

文化施設が多いというプラス面があるにもかかわらず、それぞれの施設間での連携が不足しています。ひとつだけで十分な集客が見込める施設や名所ではないので、連携した訪れる動機付けの工夫が必要です。



## 5 小平市における観光まちづくりの課題

整理した現状をもとに課題を抽出したところ、小平市の観光まちづくりには大きく分けて3つの課題があることがわかりました。具体的には以下のとおりです。

### (1) おもてなしの体制

おもてなしの要素は「人・組織・場所」です。小平市はもともと観光地ではないため、おもてなしの意識を持った人材が不足しています。まず、観光まちづくりという考え方を浸透させ、人材を育成することが求められます。

多くの観光地では観光協会や行政の観光課等があります。その土地の魅力を十分に引き出し、発信するためには、まちの魅力を知っている市民、訪れた方々を主にもてなす事業者、地域の資源をより良くしようとする関係団体が中心となり、自由な発想で機動力を持った組織が必要です。

また、観光案内所の機能を持った施設がありません。観光まちづくりの視点で地域を活性化させるためには、人々の交流や情報交換を行うための場が欠かせないため、施設づくりも課題です。

### (2) 情報発信

観光情報の発信は、インターネットが中心になっています。しかし、インターネット上に溢れている情報の中から、目的の情報を選び出してもらうためには発信方法に工夫が必要です。見つけやすく、わかりやすく、何よりも魅力的な情報発信が課題です。個々の施設や組織ごとに発信はしていますが、関連性を持たせられていません。発信している情報の整理も課題です。

魅力的な情報を発信し続けるためには、市民や来訪者のニーズをとらえる必要があります。ニーズ調査や満足度調査を行うことも、情報発信の充実には欠かせない課題であると言えます。

また、世代や生活環境によってはインターネットよりも、市報やパンフレットなどの紙媒体による情報のほうが受け取りやすい場合があります。情報の受け手によって発信媒体を選択することも課題の一つです。

### (3) 地域資源の活用

玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、都立小金井公園は、小平を一巡りする散策コース「小平グリーンロード」となっており、水と緑の自然豊かな空間は、散策、ジョギングなど生活に溶け込む形で市民に親しまれています。

また、市内の農地は、農産物の生産という機能だけでなく、四季を感じる潤いのある空間、防災時の避難場所としてなど多面的な機能をもっています。

小平市は、江戸時代の新田開発により拓かれた土地で、各地域には、当時からの由



来を持つ寺院・神社があり、街道沿いのケヤキ並木、屋敷林、短冊型の農地、地域に張り巡らされた用水路などから当時の面影をしのぶことができます。

小平市の特徴である「ゆったり感」は自然と歴史の中で形成されてきたものであり、その価値への理解を深めることが課題です。

市内には文化施設など多くの見どころ（地域資源）があります。下水道の役割を知ることができる全国初の施設である「ふれあい下水道館」や、日本一の大きさを誇る「丸ポスト」、プロサッカーチームの「FC東京」の練習グラウンドもあります。

個々の魅力アップはもちろんですが、小平グリーンロードや鉄道駅を中心に見どころをつなぐモデルコースやモデルエリアを設定することで、つながりのある観光資源に育てることが課題です。

イベントは多くの人交流する機会になり、四季を通して、さまざまな催しがあることは、地域での暮らしを豊かにするものです。市民が主体的にかかわりを持ち、自分たちのイベントであるという意識を持てるようにすることが課題です。

小平市はブルーベリー栽培発祥の地です。また地域に伝わる料理として小平糧うどんがあります。観光まちづくりには、食を支える農業の振興とともに、新商品開発への支援、商店会の支援など商業の振興が欠かせません。農業と商工業が連携して、地域の農産物を生かした小平ならではの定番商品を持つことが課題です。



#### コラム4：おもてなしの心、小平糧うどん

小平は、昔から水の乏しいところで田んぼはほとんどなく、主にヒエ・アワ・小麦などの穀類が耕作されていました。そして、正月や、彼岸、盆、その他人寄せには、畑で収穫した地粉で手打ちうどんを打つ習慣がありました。

小平糧うどんは、冷たい盛りうどんを温かいつゆで食べるというシンプルなスタイルですが、うどんだけでも概ね23の製造工程があり、つゆや糧を含めると、なかなか奥の深い郷土料理であると言えます。

かて糧とは、うどんに添える季節野菜で、旬のナス、ダイコン、ホウレン草などをゆでたものをいいます。味付けは各家庭によって違いがあるようです。

小平ふるさと村では毎週土日及び祝日（イベント等による休業有）に、限定50食で提供しています。



## 第2章 基本理念と方針

### 1 基本理念

市民が快適に生活でき、住んでいるまちに愛着や誇りを持ち、市外からの来訪者にも感動してもらえ、「小平が好き」という人が増えるような魅力ある観光まちづくりを進める必要があります。

以下は観光まちづくりの視点から、小平市が取り組む具体的な施策の前提となる基本理念です。

### 「訪れたい、住み続けたい」の観光まちづくり

市民以外の方の「訪れたい」気持ちを引き出すための、観光的な視点を持つことで、外部からの評価が高まり、まちづくりに関わっている市民をはじめ、観光事業関係者の自信につながります。そして小平市の知名度が高まり、まちとしての価値や魅力が増します。

それには、現在、小平市に住んでいる方が「住み続けたい」と思い、まちの価値を知り、小平に住んでいることを誇りに思い、小平に愛着が生まれ、小平市民であることをひとつのステータスとして認識することが必要です。

この二つの視点を両輪として進めていくことは簡単ではありませんが、「訪れたい、住み続けたい」の考えを念頭に置いて取り組むことが、観光まちづくりであると言えます。

## 2 基本方針

これまで整理してきた小平市の地域特性、観光に関する意識の現状、基本理念をふまえたうえで、本プラン策定に向けた方向性を次のように定めます。

### (1) 過ごしやすいまち

市民が安心して暮らし、来訪者が快適な時間を過ごせる観光まちづくりを推進します。

### (2) ゆったりしたまち

小平グリーンロードを中心とした、ゆったり感に満ちた観光まちづくりを推進します。

### (3) 活力のあるまち

多世代がいきいきと暮らし、身近なところにスポーツや文化があり、気軽に触れられる、活力あふれる観光まちづくりを推進します。

## キャッチフレーズ

「都会から 一番近い プチ田舎」

プチ田舎とは・・・

小平市の地域資源を洗い出し、魅力をまとめる中で、「ゆったり」としたまちの中に「文化や交流」があり、「暮らしやすいまち」であることがわかりました。

都会に近いのに緑が多く「くつろぎの空間」があるまち、ゆったりとして居心地の良いまち、これが小平市の魅力の柱であると確認したのです。小平市は、「訪れたい」で終わるのではなく、「住んでみたい」「住み続けたい」と思わせる魅力のあるまちであるということを再認識できたのです。

これは、小平市第三次長期総合計画の基本理念である「いい郷（さと）であり続けること」のイメージと重なるものでもあり、本プランでもこれを将来像とすることとしました。

「プチ田舎」は、このイメージを表現する言葉であり、都会の特性である利便性の高さ、田舎（ふるさと）のイメージに合った緑に囲まれた環境という、都会と田舎の両方のよさが共存している地域という意味です。

ゆったりと住みやすいまちの代名詞として、小平市の魅力を伝える言葉として、「プチ田舎」に思いを込めています。

### 3 振興プランの推進にあたって

#### ○地域中心の観光まちづくり

小平市の目指す観光まちづくりは、地域住民・地域社会を主体として、よりよいまちづくりのために進める取り組みです。

観光と言えば、有名な観光地で一部の観光事業者が行うもの、というイメージがありますが、観光まちづくりは、まちのよさを伸ばし、まちの魅力を磨くことであり、「活力のあるまち」を築くうえでも大きな効果が期待されます。

※「地域」とは…

本プランでは地域を「個人や団体の活動範囲」といった、比較的ゆったりしたとらえ方をします。物理的にでも仮想空間でも、一緒に活動できる枠組みを「地域」として定義します。

#### ○まちの魅力に気付くことが出発点

小平市には平らな地形や、ほどよい自然や緑が残っていることなど、「過ごしやすいまち」としての魅力が多くあります。

市民自らが小平市のよさ、まちの魅力に気付くことが、小平市の観光まちづくりの出発点です。

さらに、まちの魅力を磨くため、市民や関係団体、行政など多様な主体が参加し、協働することによって観光まちづくりを進めることが大切です。

#### ○小平らしい観光

小平らしい、「ゆったりしたまち」にふさわしい観光としては、一度に大勢が殺到するようなイベントを行うことよりも、来訪者が市民とのふれあいを通して「小平愛好者」となり、繰り返し訪れてもらうようにすること、1回あたりの滞在時間を長く、「ゆったり」過ごしてもらうようにすることに重点を置きます。

鉄道等を利用する日帰り客を主な来訪者に想定し、市内の研修施設等の滞在者や、近隣市の宿泊客なども視野に入れることにします。市民や市内への通勤・通学者が日ごらの生活圏を離れて、市内の他地域を訪れることも観光と捉えられます。

環境に負荷の少ない観光を進め、地域環境と地域経済、地域社会のバランスがとれたまちを目指します。

## ○観光まちづくりと人づくり

観光まちづくりには、市民（市民団体）や事業者、関係団体、市（行政）などの多様な主体が参加し、それぞれが役割を担い、責任を持ちながら協力し、進める必要があります。

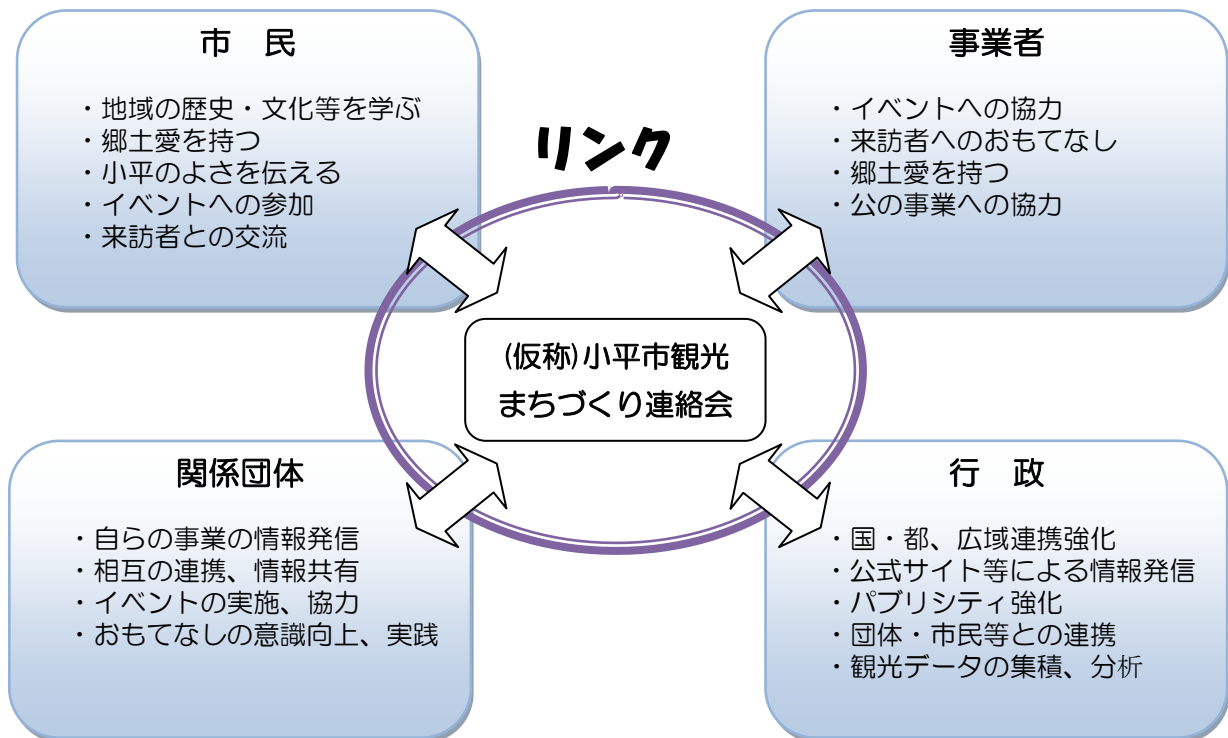
小平のいいところを見つけ、魅力を磨くには、特に観光まちづくりの担い手となる市民や事業者等の活動が鍵になります。担い手となる市民等が育つこと、また市民等の輪が広がることによって、観光まちづくりと人づくりが相まって進むことを目指します。

## ○推進体制づくり

本プラン推進のための体制づくりとして、関係団体や市民等の参加による（仮称）小平観光まちづくり連絡会を設置するものとします。

（仮称）小平観光まちづくり連絡会では、情報の共有や、観光まちづくりの機運を高めるうえで効果のある事業等を進めます。その取組みの中で観光まちづくりに対する地域の機運が高まり、民間主体で観光まちづくりを進める組織（観光推進組織）が設置され、推進体制の充実、強化が図られることを想定します。

具体的な個々の事業は、民間事業者や意欲のある市民（市民団体）等が主導して、自由な発想のもとで行い、必要に応じて市（行政）が支援を行うことが望ましいあり方です。



## 第3章 小平市の観光アクションプラン50

### 1 観光まちづくりの戦略及び目標設定

小平市が目指す「訪れたい、住み続けたい」の観光まちづくりを進めるため、今後10年の間に取り組む観光まちづくりの3つの戦略と7つの目標を設定します。

#### 戦略1 おもてなしの体制づくり

小平市全体で観光まちづくりを進めるため、

##### 目標1 観光まちづくりの推進体制を確立する

観光案内などのサービスを充実させるため、

##### 目標2 おもてなしの環境整備を進める

#### 戦略2 情報発信環境の整備

まちの魅力を広く知ってもらうため、

##### 目標3 地域の情報発信力を強化する

#### 戦略3 地域資源の活用

自然・緑が残る良好な環境を維持するため、

##### 目標4 ゆったりしたまちの価値への理解を深める

見どころを結び、魅力を高めるため、

##### 目標5 文化・交流につながる地域資源を活用する

地域の交流を増やし、活性化を図るため、

##### 目標6 特色ある自分たちのイベントという意識を高める

食の地域資源への関心をさらに高めるため、

##### 目標7 小平ならではの特産品づくりと産業振興を進める

## 2 アクションプラン50と重点施策

戦略と目標を実現する取組みとして、50のアクションプランを設定します。また、優先して取り組むプランを重点プランとして位置づけます。

### 目標1：観光まちづくりの推進体制を確立する

これまでに進めている小平グリーンロードを活用した取組みなどを、さらに総合的な観光まちづくりとして進めるため、取組みの中心になる体制づくり、組織づくりを行います。参加する多様な主体の役割分担を明らかにし、市民、事業者、関係団体、市（行政）などが協働する体制を築きます。

行政内部においても、観光、広報、地域社会、緑、水、文化振興、生涯学習などを横断する取組みを進める必要があります。

国や東京都の施策の動向をふまえ、また、近隣自治体等と連携した観光まちづくりを進めます。

**重点！**

#### ★ プラン1 小平観光まちづくり連絡会の設置

観光まちづくり振興プラン検討委員会を中心に、関係団体や市民等に広く参加を呼びかけ、（仮称）小平観光まちづくり連絡会を設置します。



#### プラン2 庁内観光業務の情報共有

観光まちづくりに関連する事業を（仮称）小平観光まちづくり連絡会とともに進めるよう、観光関連情報の共有をする庁内横断組織を設置します。

#### プラン3 観光データの共有及び収集

既存の観光に関するデータを（仮称）小平観光まちづくり連絡会と共有し、今後のデータ集積方針を決定する仕組みの構築を検討します。

#### プラン4 各種団体との連携強化

東京都の外郭団体である公益財団法人東京観光財団等との連携を強化し、協力して小平市の観光まちづくりを進めます。

#### プラン5 近隣自治体との連携強化

広域行政圏（北多摩北部5市）としては「多摩六都広域連携プラン」（平成23年）に基づき、広域で取り組むメリットを生かして、産業・観光の魅力向上と情報発信の強化を図ります。また、広域行政圏に限らず、近隣自治体や玉川上水沿いの自治体等との連携強化を図ります。

## 目標 2 : おもてなしの環境整備を進める

観光まちづくりでは、地域全体におもてなしの心（ホスピタリティ）を広げることが大切です。

市民自身が積極的にまちの魅力を発信し、訪れる人にも見どころや特産品などを紹介するような機運を作っていきます。また、各種のイベントや、スポーツ、国際交流などさまざまな分野で活躍している多くのボランティアやNPO法人、各種団体などとも連携し、観光まちづくりを担う人材の育成を図ります。

### 活動中のボランティア（一例）

- ・小平グリーンロードやスポーツ、国際交流、援農等
- ・ふれあい下水道館、ルネこだいら、小平ふるさと村等のイベントスタッフ
- ・ご当地キャラクターを運営するスタッフ
- ・シルバー人材センター会員が行っている市内外のコースガイド

また、情報提供や人の交流などの機能をもった、おもてなしの施設づくりを検討する必要があります。

市内には鉄道7駅（隣接を含めると10駅）があるため、観光まちづくりでは、大型バスでの観光ではなく、鉄道を利用した観光をメインとして考え、レール&ウォーク“歩くまち”としてのPRをメインにします。

### ★プラン6 観光まちづくりに関する人材の育成

重点！

公民館講座等の生涯学習などと連携し、観光まちづくりを担う人材の育成を図ります。

### プラン7 観光関連ボランティア活動の推進

ボランティア活動についての情報を統合し、老若男女を問わず、気軽に参加できる環境づくりを進めます。

### プラン8 観光案内所の設置

観光情報の発信を行うほか、地元産の農産物等の直売や特産品などもあり、来訪者や市民が交流できる場の設定を検討します。



### プラン9 観光案内板の設置

ピクトグラムと多言語（日本語、英語、中国語及びハングル）で表記した案内板の設置に取り組みます。

### プラン10 トイレや休憩所の案内

小平グリーンロードをはじめとして、市内を散策する際に必要な、トイレや休憩できる場所の情報をわかりやすく提供する取組みを進めます。

### プラン11 鉄道駅からのウォーキングコースPR

鉄道駅を中心に、“歩くまち小平”をメインにしたきめ細かなPRを行います。

### プラン12 公共交通との連携強化

鉄道沿線の住民を意識し、鉄道事業者との連携をさらに進めるとともに、バス事業者等との連携を図ります。



#### コラム5：ピクトグラムって？

一般に「絵文字」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つです。地と図に明度差のある2色を用いて、表したい概念を単純な図として表現する技法が用いられています。視覚的な図で表現することで、言語に制約されずに内容の伝達を行うことができます。

「東京都観光産業振興プラン～活力と風格ある世界都市・東京」でも、案内サイン標準化の推進を行い、平成19（2007）年度に「国内外旅行者のためのわかりやすい歩行者用案内サイン標準化指針」を策定し、ピクトグラムや多言語で表記した観光案内標識の設置をするとともに、区市町村、鉄道事業者等への協力依頼を行い、わかりやすい案内標識の整備を促進しています。

（例）



駅



レストラン



美術館

### 目標3：地域の情報発信力を強化する

観光まちづくりを進めるうえでは、市民自身がまちの魅力に気付くこと、また、さまざまな情報発信ツールを利用して、その魅力を広く内外に伝えることが大切です。

地域の情報を入手する手段としては、ガイドブックやパンフレット等のほか、インターネットの情報を利用することが一般的になっており、インターネットの効果的な活用が必要です。

広範囲な影響力を持つテレビ、新聞などのマスメディアに対するパブリシティ（情報提供）は有効であるほか、地域密着で親しまれているコミュニティFMやケーブルテレビ、タウン誌などの地域メディアにもPR効果が期待できます。

また、映画やドラマ、アニメなどの舞台となることは、まちの認知度を高め、映像を通じた新たな情報発信につながる可能性を持っています。

**重点！**

#### ★ プラン13 観光ポータルサイトの作成

地域情報を発信しているサイトは多数あるので、利用者が見つけやすいように情報を集約するための観光ポータルサイトを開設します。

#### プラン14 SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用

ツイッターやフェイスブックなどの双方向に情報共有が可能なSNSを活用した情報発信を行います。

#### プラン15 パブリシティの強化

小平市が多くの人目に触れるよう、質、量ともにパブリシティの強化を図ります。

#### プラン16 映画撮影やアニメ舞台の誘致

多くの人目に触れる映画の撮影場所やアニメの舞台になり、知名度向上を目指すために、受入体制を整えます。

#### プラン17 観光まちづくり大使の任命

小平ゆかりの著名人を観光まちづくり大使に任命し、市のPRをしていただくことを検討します。

#### プラン18 テーマを意識した情報発信

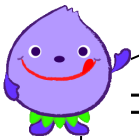
「季節」「食」「アート」などのテーマごとの情報発信や、ターゲット（受け手）によって、ほしい情報を選べる環境づくりを行います。

## プラン 19 情報発信媒体の適正化

伝えたい情報が十分に伝わるよう、年代・性別によって市報やインターネット等の情報発信ツールに変化をつけるなどの工夫をします。

## プラン 20 ご当地キャラクターの活用

小平市にはぶるべー（小平ブルーベリー協議会）、地域宣伝隊コダレンジャー（小平市グリーンロード推進協議会）というご当地キャラクターがいます。これらのキャラクターはイベント等に出演するなど、子どもを中心に認知度が上がってきています。今後も出演回数を増やしたり、市外のイベントにも参加したり、露出を増やすことで小平市の知名度を上げていきます。



### コラム6：ぶるべー

シンボルマークの「ブルーベリー栽培発祥の地こだいら」が平成 18 年に武蔵野美術大学の協力を得てデザインされました。

愛称の「ぶるべー」は市民公募によるもので「ブルーベリー」と「小平」の「平」を掛け合わせた名前です。

平成 21 年にはゆるキャラ「ぶるべー」が登場しました。現在も市のイベントなど、さまざまな場所で活躍しています。



### コラム7：地域宣伝隊コダレンジャー

平成 21 年度の「ご当地ヒーローを作って情報発信しては」との職員提案がきっかけで、平成 23 年 10 月に誕生しました。

人と人とのふれあいを大切にする「丸ポストレッド」、水と緑と大地を愛する「グリーンロードグリーン」、小平の果物と野菜を守る「ブルーベリーパープル」の 3 人編成です。

さまざまなイベントに出演して、小平市の宣伝に日夜励んでいます。



## 目標4：ゆったりしたまちの価値への理解を深める

小平グリーンロードは、水と緑の自然豊かな空間です。散策、ジョギングなど生活に溶け込む形で、今では市民だけでなく市外居住者も多く訪れています。小平市グリーンロード推進協議会では四季折々のグリーンロードを楽しめるよう、野草保護ゾーンの維持管理や、草木の剪定を行ったり、花まつり・収穫祭などのイベントを行っています。

また、市内には、多くの直売所があり、畑で採れたばかりの新鮮な野菜や果物が販売されています。季節によっては収穫体験ができる農園も多く、農産物の生産を身近に感じることができます。

小平市には、現在も江戸時代の新田開発により拓かれた当時の由来を持つ寺院・神社があります。屋敷林や、航空地図を見ると非常に分かりやすい短冊型の農地、広範囲にわたって張り巡らされた用水路などから当時の面影をしのぶことができます。

小平市の特徴である「ゆったりしたまち」は自然と歴史の中で形成されてきたものであり、その価値への理解を深めることで、今後の小平市の良好な環境の維持につながります。

**重点！**

### ★プラン21 イベントの質向上

小平グリーンロード沿いで現在開催しているイベントにおいてニーズ調査を行う等、集客力を向上させる方法を探ります。

### プラン22 小平市グリーンロード推進協議会の活動広報強化

SNSを活用するなど、より広く小平市グリーンロード推進協議会の活動を知らせます。

**重点！**

### ★プラン23 地産地消の推進及び情報発信

小平市で生産されている農産物を入手できる場を増やすとともに、その情報の発信を強化します。

### プラン24 魅力ある直売所の情報発信強化

多品目の地場産農産物を生かすため、魅力ある直売所の情報を整理して発信します。

### プラン25 観光農園情報の充実

市民及び来訪者のいずれもが気軽に観光農園を利用できるよう、観光農園の情報をまとめて、提供します。

## プラン 26 農地の保全

東京むさし農業協同組合と、災害時における生産緑地の活用と生鮮食料品の調達に関する協定を結んでいることや、農産物の学校給食での使用により食育の一部を担っていること等をもとに農地を守っていきます。

重点!

## ★プラン 27 調べ学習等による郷土教育の充実

学校教育における調べ学習の機会を利用し、「としょかんこどもきょうどしりょう」や視聴覚ライブラリーのビデオ教材等により子どものうちから小平の歴史に慣れ親しんでもらいます。

※調べ学習とは…学習課題の解決のために、書籍・インターネット・聞き取り等の方法を用いて目的をもって主体的に情報を収集、取捨選択した上で、その内容をまとめ、発表する学習活動です。

## プラン 28 緑の保全や用水路等の整備

「みどりの基本計画 2010」に基づく緑の保全や、用水路の整備（せせらぎ、親水公園などの親水空間）、小平グリーンロードの整備、「あかしあ通りグリーンロード化基本計画」を進めます。

## プラン 29 ストーリー性を持った歴史的景観のPR

玉川上水、用水路、寺院・神社など地域の歴史を掘り起こし、武蔵野新田の開発などのPR方法を検討します。特に玉川上水の小平市区間は他にない独自の景観であることの十分なアピールを行います。

## プラン 30 観光ガイドの養成

市内各所のエリアごとに観光ガイドを養成し、見どころ案内等を行います。



玉川上水緑道（グリーンロード）



竹内家の大ケヤキ

## 目標5：文化・交流につながる地域資源を活用する

小平市には最先端技術を持った工場や研究施設、企業博物館、FC東京の練習グラウンドや文化施設など多くの見どころ（地域資源）があります。個々の見どころの魅力をさらに磨くとともに、小平グリーンロードや鉄道駅を中心に見どころ同士をつなぐモデルコースやモデルエリアを設定することで価値を高め、「小平といえばこれ」と言われるような観光資源に育てることが必要です。

また、小平市は、小平市大学連携協議会（愛称：こだいらブルーベリーリーグ）に加盟している嘉悦大学、白梅学園大学・白梅学園短期大学、津田塾大学、一橋大学、文化学園大学、武蔵野美術大学（50音順）の6つの大学をはじめ、学校の多い「学園都市」です。それぞれの学校は教育に携わる多くの人材を擁しており、そのもとで多くの若い世代が学んでいます。また、各学校の出身者が各界で活躍しています。

小平市ゆかりの著名人の存在や、さまざまなかたちで活躍している市民など「人の魅力」を伝えていくことも大切です。

**重点！**

### ★プラン31 学生発信企画の受入及び実施

こだいらブルーベリーリーグをはじめ、学生が発信する企画等を受け入れ、実施する体制づくりを進めます。

### プラン32 市内各学校の出身者へのアプローチ

市内各学校の出身者へのアプローチを行い、それぞれの分野で小平市のPRをしてもらうための取組みを進めます。

### プラン33 企業博物館PR

市内にはゴムとタイヤについて学べるブリヂストンTODAYや、ガスの歴史が学べるガスミュージアム等があります。これらの企業博物館の地域資源としての活用を図ります。

### プラン34 モデルコースやモデルエリアの設定及び情報提供

小平グリーンロードや鉄道駅を中心に、丸ポストやオープンガーデンなどの地域資源、工場見学など、小平市の特色がわかるモデルコース等の設定を行い、情報提供をします。



### プラン 35 地元プロサッカーチームFC東京の応援強化

小平市にはFC東京の練習場があり、地元のチームであるという意識を、市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援します。



### プラン 36 各施設の包括的な広報

小平ふるさと村、平櫛田中彫刻美術館、鈴木遺跡資料館、ふれあい下水道館の特徴を際立たせた広報をし、さらに各施設を包括的に広報することで、魅力アップにつなげます。



#### コラム8：平櫛田中とはこんな人

平櫛田中(ひらくしでんちゅう)は、少年期に木彫に興味を覚え、明治26年5月、中谷省古に弟子入りして木彫の手ほどきを受けて以来、百歳をこえてからも現役の彫刻家として活躍しました。その芸術の特徴は、優れた写実力と深い精神性、そして彩色にあるといえましょう。

主な作品は、「無矣々々(ないない)」「姉ごころ」などの日常周辺の人物をテーマとした身近彫刻や、仏教的テーマを題材とした「活人箭(かつじんせん)」「法堂二笑(はつとうにしょう)」「尋牛(じんぎゅう)」、個性的な、理想を刻み込んだ「烏有(うゆう)先生」「転生」「五浦釣人(ごほちょうじん)」など。

田中芸術のすべてを結集し、20年の歳月をかけて完成したのが生涯の大作「鏡獅子」です。幾多の苦心と曲折を経て出来上がった、像高2メートルの彩色を施したこの作品は、現在国立劇場正面ホールに展示されています。



鏡獅子

### プラン 37 アートに触れられる環境整備

小平グリーンロードの狭山・境緑道には「彫刻の小径」として齋藤素巖のブロンズ像が16基17作品展示されています。また市内には「武蔵野美術大学」があり、秋には中央公園で「小平アートサイト」を開催するなど、地域と深くかかわっています。これらを中心に、こだいらまちなかアートとして、市内のいたるところでアート作品に触れられる機会を増やし、PRします。



齋藤素巖ブロンズ像「農業」



彫刻の谷緑道

### プラン 38 地域で活動している人の紹介

NPOやボランティア団体、自治会、国際交流協会など、地域で活動している団体や個人にスポットを当て、多くの方に活動を広く知ってもらえるようにします。



#### コラム9：齋藤素巖とはこんな人

齋藤素巖は、大正元年から文展などに作品を発表し、数々の受賞を重ねる一方、わが国初の本格的な彫塑(ちょうそ)専門団体「構造社」を設立した日本近代を代表する彫刻家の一人です。

小平市(学園東町)には昭和18年に転居し、昭和49年に亡くなるまで、この地で制作活動を行いました。

兵庫県湊川(みなとがわ)公園「大楠公像(だいなんこうぞう)」、東京赤坂の高橋公園「高橋是清翁像(たかはしこれきよおうぞう)」が代表作としてよく知られています。

ご遺族から寄贈された240点を超える石こう原型から鑄造(ちゅうぞう)されたブロンズ作品の一部は、小平グリーンロード「齋藤素巖・彫刻の小径」のほか、小平市役所南側の芝生広場(「荷重(におも)」)や、ルネこだいら、中央図書館玄関壁面などにも設置されています。



## 目標6：特色ある自分たちのイベントという意識を高める

イベントは多くの人交流する機会になり、四季を通して、さまざまな催しがあることは、地域での暮らしを豊かにするものです。

小平市では大小のさまざまなイベントが行われており、毎年の行事として広く親しまれているものや、評価の高い催しがあります。

市や実行委員会だけが進めていくようなイベントにならないように、市民の方々が主体的にかかわりを持ち、自分たちが作り上げた自分たちのためのイベントであるという意識を持てるようにしていきます。

**重点!**

### ★プラン39 テーマ別のイベントの企画

市民や来訪者にアピールするようなテーマ別（食、農、アートなど）のイベントを企画します。

### プラン40 準備段階からの市民参加

まつり等は準備段階から多くの市民が参加できる環境づくりを進めます。

### プラン41 イベント準備過程の発信

SNS等を利用し、イベント開催のお知らせという形ではなく、準備の様子も発信することで、大勢の方にかかわりを感じてもらえるような仕組みづくりを行います。

### プラン42 話題性、インパクトのあるイベントの企画

事業者や市民も一体となって取り組み、特徴的で、小平でしか味わえないイベントを企画します。

### プラン43 まつりや伝統行事を守り伝える

市内には特色のある伝統的なまつりなどの伝統行事が多く残っています。これらを絶やすことなく、守り伝えていきます。



## 目標 7 : 小平ならではの特産品づくりと産業振興を進める

小平市の農作物の中では、なし、うどん等が名産とされています。近年ではブルーベリーの栽培が盛んになっており、お菓子や飲料などの加工品作りも活発です。また、地域に伝わる料理として、小平糧うどんなどがあります。姉妹都市小平町の産品も非常に人気があります。

小平市の観光まちづくりには、食を支える農業の振興とともに、新商品開発への支援、商店会の支援など商業の振興が欠かせません。農業と商工業が連携して、地域の農産物を生かした小平ならではの新品（加工品や料理）開発の取組みを行い、その中から、「定番」と言える商品が育つことが期待されます。

また、地産地消に対する関心の高まりもあり、小平の農産物や加工品をまとめて買える場所の充実に対する要望も多くなっています。

**重点!**

### ★プラン 44 特産品開発の支援

地域ならではの特産品を確立するため、話題性のある新商品（加工品、料理）の開発と、目玉といえる定番商品の確立を支援し、姉妹都市等の産品の活用も検討します。

### プラン 45 小平糧うどんのPR強化

地域に伝わる料理である「小平糧うどん」に注目し、地域の枠を越えたPR活動により知名度の向上を目指します。

### プラン 46 「小平産ブルーベリー」ブランド化推進

小平市が栽培発祥の地であるブルーベリーについて、ブランド化を推進します。

### プラン 47 特産品を購入できる施設づくり

特産品の販売をはじめ、飲食や休憩などができる施設の確保について、検討します。

### プラン 48 販路の拡大

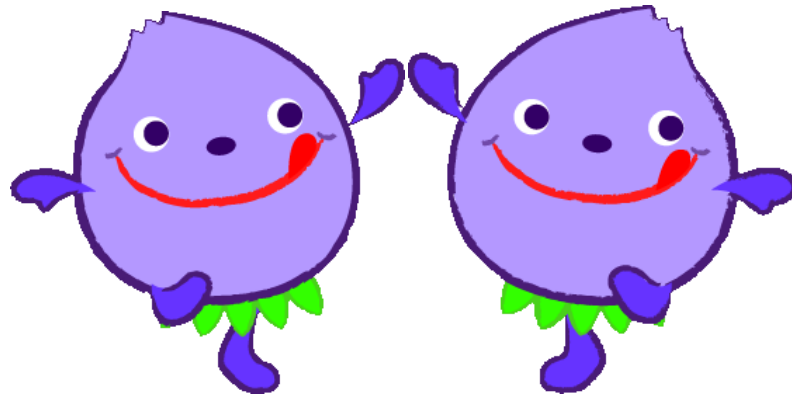
市民や来訪者が特産品を入手しやすくなるよう、小平ふるさと村の特産品コーナー拡大や、JAの共同直売所の充実をはじめ、販路の拡大を図ります。

### プラン 49 小平産特産品提供店舗の拡大

小平産特産品の提供ができる店舗を増やす仕組みをつくりまします。

**プラン 50 きめ細やかなサービス実施**

大型店舗ではできない、商店会や小型店舗、個人商店ならではのきめ細やかなサービスを実施します。



## 第4章 振興プランの実現に向けて

### 1 推進主体及びスケジュール

本プランに基づいて、第3章で示した50のアクションプランを推進するにあたり、推進主体とスケジュールを明確にする必要があります。

各アクションプランの推進主体は「市民」「関係団体」「事業者」「行政」及び「(仮称)小平観光まちづくり連絡会」としています。アクションプランは推進主体のうちいずれか一つのみで行うものではなく、複数が関わって実施していくことが重要です。

実施スケジュールについては、本プラン策定後、概ね1～3年を短期、3～5年を中期、5～10年を長期に分けて考えています。早急に実行すべきものや、優先順位の高いものを短期、詳細を検討するのに時間を要するものを中期、期間を定めて行うことに不向きなものや、息の長い取組みが必要なものを長期と位置づけました。また、実施に向けての検討を行う期間を斜線、実施を予定している期間を実線で表示しました。

### 2 プランの進捗状況の把握

毎年度の事業実施状況や実績を取りまとめ、(仮称)小平観光まちづくり連絡会や市内横断組織へのフィードバックを行い、進捗状況を把握します。

次ページ以降の「アクションプラン50推進主体および推進スケジュール」の見方  
(凡例)

項目	推進主体					スケジュール				担当課
	市民	関係団体	事業者	行政	連絡会	短期	中期	長期	重点施策	太字はメイン
戦略1：おもてなしの体制づくり										
目標2：おもてなしの環境整備を進める										
6 観光に関する人材の育成	○	○		●	●	■	■	■	★	市民協働担当 <b>産業振興課</b> 公民館
7 観光関連ボランティア活動の推進	○	○		○	●	▨	■	■		市民協働担当 <b>産業振興課</b>

●はメイン主体を表しています。

○はサブ主体を表しています。

斜線部分は検討期間を表しています。

実線部分は実行期間を表しています。

※メイン主体とは、主に中心となってプランを進めていく推進主体を指します。また、サブ主体とはプランを実行する上で協力が欠かせない推進主体です。

※50のプランの中でも最重要と位置づけているプランを重点施策とし、★印を記しています。

## アクションプラン50 推進主体及び推進スケジュール

項目	推進主体					スケジュール				担当課
	市民	関係団体	事業者	行政	連絡会	短期	中期	長期	重点施策	太字はメイン
<b>戦略1：おもてなしの体制づくり</b>										
<b>目標1：観光まちづくりの推進体制を確立する</b>										
1	●	●	●	●		■			★	産業振興課
2				●		■				産業振興課
3		○	○	○	●	■				産業振興課
4		○		●	●	■	■	■		産業振興課
5		○		●	○	■	■	■		産業振興課
<b>目標2：おもてなしの環境整備を進める</b>										
6	○	○		●	●	■	■	■	★	市民協働担当 産業振興課 公民館
7	○	○		○	●	■	■	■		市民協働担当 産業振興課
8	○			○	●	■	■	■		産業振興課
9				●		■	■			産業振興課 みちづくり課
10		○	○	○	●	■	■	■		産業振興課
11		○	○	○	●	■	■	■		産業振興課
12		○	●	●	○	■	■	■		産業振興課 公共交通担当

## アクションプラン50 推進主体及び推進スケジュール

項目	推進主体					スケジュール				担当課
	市民	関係団体	事業者	行政	連絡会	短期	中期	長期	重点施策	太字はメイン
<b>戦略2：情報発信環境の整備</b>										
<b>目標3：地域の情報発信力を強化する</b>										
13 観光ポータルサイトの作成				○	●				★	秘書広報課 産業振興課
14 SNSの活用	○	○	○	○	●					秘書広報課 産業振興課
15 パブリシティの強化				●						秘書広報課 産業振興課
16 映画撮影やアニメ舞台の誘致	○	○	○	○	●					産業振興課
17 観光まちづくり大使の任命				●	●					産業振興課
18 テーマを意識した情報発信		○	○	○	●					秘書広報課 産業振興課
19 情報発信媒体の適正化		○	○	○	●					秘書広報課 産業振興課
20 ご当地キャラクターの活用		●		○	○					産業振興課
<b>戦略3：地域資源の活用</b>										
<b>目標4：ゆったりしたまちの価値への理解を深める</b>										
21 イベントの質向上		○		●					★	産業振興課
22 小平市グリーンロード推進協議会の活動広報強化		●		○						産業振興課
23 地産地消の推進及び情報発信		●	○	○					★	産業振興課
24 魅力ある直売所の情報発信強化		○	○	○	●					産業振興課

## アクションプラン50 推進主体及び推進スケジュール

項目	推進主体					スケジュール				担当課
	市民	関係団体	事業者	行政	連絡会	短期	中期	長期	重点施策	太字はメイン
<b>目標4：ゆったりしたまちの価値への理解を深める（続き）</b>										
25		●	○	○		■	■			産業振興課
26		●		●		■	■	■		産業振興課
27	○	○		●		■	■	■	★	産業振興課 指導課 図書館
28				●		■	■	■		水と緑と公園課
29		○		○	●	■	■			産業振興課 水と緑と公園課 生涯学習推進課
30		○		○	●	■	■			産業振興課
<b>目標5：文化・交流につながる地域資源を活用する</b>										
31		○		●		■	■	■	★	地域文化課 産業振興課
32		○		○	●	■	■			地域文化課 産業振興課
33		○	○	○	●	■	■	■		産業振興課
34			○		●	■	■	■		
35	○	○		●		■	■	■		政策課 産業振興課 体育課
36		○		○	●	■	■	■		地域文化課 産業振興課 下水道課 生涯学習推進課
37		○		●	○	■	■	■		産業振興課 水と緑と公園課
38	○	○	○	○	●	■	■	■		市民協働担当 産業振興課



## アクションプラン50 推進主体及び推進スケジュール

項目	推進主体					スケジュール				担当課
	市民	関係団体	事業者	行政	連絡会	短期	中期	長期	重点施策	太字はメイン
<b>目標6：特色ある自分たちのイベントという意識を高める</b>										
39 テーマ別のイベントの企画		●		○	○				★	秘書広報課 産業振興課
40 準備段階からの市民参加	○	●	○	○	○					地域文化課 産業振興課
41 イベント準備過程の発信	○	●	○	○	○					秘書広報課
42 話題性、インパクトのあるイベントの企画		●		○	○					秘書広報課 産業振興課
43 まつりや伝統行事を守り伝える	●	●		●	●					地域文化課
<b>目標7：小平ならではの特産品づくりと産業振興を進める</b>										
44 特産品開発の支援			○	○	●				★	産業振興課
45 小平糧うどんのPR強化		○	○		●					
46 「小平産ブルーベリー」ブランド化の推進		●	○	○	○					産業振興課
47 特産品を購入できる施設づくり		○	○	○	●					産業振興課
48 販路の拡大		●	○		○					
49 小平産特産品提供店舗の拡大		●	○	○	○					産業振興課
50 きめ細やかなサービス実施		●	○							

## 資料編

### 1 小平市観光まちづくり振興プラン策定経過

開催日等	内 容
平成24年 7月25日	第1回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・基本方針の確認
平成24年 9月19日	第2回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・観光まちづくりの方向性の検討
平成24年10月24日	第3回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・インターネット調査等の報告及び検討
平成24年11月14日	第4回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・アクションプランの検討
平成24年12月 4日	第5回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・アクションプランの検討（継続）
平成25年 3月26日	第6回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・観光まちづくり振興プラン（素案）の検討
平成25年 5月15日	第7回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・アクションプランの再検討
平成25年 6月20日	第8回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・観光まちづくり振興プラン（素案）の検討
平成25年 7月18日	第9回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会開催 ・観光まちづくり振興プラン（素案）の検討
平成25年11月 6日	小平市観光まちづくり振興プラン（素案）庁議付議
平成25年11月13日	小平市観光まちづくり振興プラン（素案）庁議付議

平成25年11月19日 ～平成25年12月18日	小平市観光まちづくり振興プラン（素案）に対する市民意見公募 手続（パブリックコメント）期間
平成26年 1月22日	小平市観光まちづくり振興プラン（案）庁議付議
平成26年3月	小平市観光まちづくり振興プラン発行

(庁内検討組織)	
○関係課等連絡会（課長級）	
…検討委員会資料の事前調整（顔合わせ1回＋検討7回＝8回開催）。	
○調査研究部会（職員）	
…地域資源の洗出し、施策の叩き台を作成（顔合わせ1回＋検討4回＝5回開催）	

## 2 小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会設置要綱

平成24年6月4日

事務執行規程

(設置)

第1条 小平市観光まちづくり振興プラン（以下「プラン」という。）の策定に当たり、内容の検討を行うために、小平市観光まちづくり検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) プランの策定に関すること。
- (2) その他プランの策定に必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 委員会は、識見を有する者、観光によるまちづくりに関係する団体及び事業者の代表並びに市民のうちから市長が依頼する委員12人以内をもって構成する。

2 委員のうち5人以内は、公募により選任する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを選出する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(招集)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

(会議の公開)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、公開する。ただし、会議を公開することにより、公平かつ円滑な会議の運営が著しく阻害されるおそれがあるときは、委員会の議により非公開とすることができる。

2 会議の傍聴の手続、傍聴人の遵守事項その他会議の公開に関し必要な事項は、別に定める。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要に応じて検討事項に関係がある者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(設置期間)

第8条 委員会の設置期間は、設置の日からプランが策定される日までとする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、市民生活部産業振興課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

(施行期日)

この要綱は、平成24年6月4日から施行する。

### 3 小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会名簿

役職	氏名	所属等
委員長	栗山 丈弘	文化学園大学
副委員長	鈴木 庸夫	公募市民
委員	出竿 恒夫	公募市民
委員	今西 さやか	公募市民
委員	小野 昌子	公募市民
委員	白井 靖夫	公募市民
委員	尾山 ひろみ	小平商工会
委員	小山 一江	小平市グリーンロード推進協議会
委員	酒井 克哲	多摩信用金庫
委員	嶋田 一成	西武鉄道株式会社（～平成 25 年 3 月）
委員	寶迫 直樹	西武鉄道株式会社（平成 25 年 4 月～）
委員	新保 邦彦	東京観光財団（～平成 25 年 3 月）
委員	岡本 貴志	東京観光財団（平成 25 年 4 月～）
委員	内藤 雅夫	J A 東京むさし小平支店

（敬称略）